

第32回

第二次世界大戦

監修・講師
中野耕太郎

学習のねらい

第一次世界大戦後のパリ講和会議では、国際連盟が創設されるなど新しい平和の構築が目指された。この流れを受けて、1920年代には、ヨーロッパにおけるヴェルサイユ体制、東アジアのワシントン体制といった国際秩序が形成された。だが、世界恐慌が勃発すると、各国に政治混乱が広がり、ナチスやファシスト党などの非民主勢力が台頭した。また経済のブロック化が進むなど、国際協調の雰囲気も後退し、ついには第二次世界大戦が勃発した。このように、第一次大戦後の平和はたった20年で挫折することになる。今回はこの間の経緯をつぶさに学ぶとともに、第二次世界大戦とはどのような戦争だったかを考える。

- ・ <世界恐慌とニューディール>
- ・ フランクリン・ローズヴェルト ブロック経済
- ・ <ファシズムの台頭>
- ・ ナチス ムッソリーニ スペイン内戦
- ・ <大戦のはじまりと拡大>
- ・ 大西洋憲章 真珠湾攻撃 独ソ戦

■ ■ ■ 世界恐慌とニューディール ■ ■ ■

1920年代のアメリカは前例のない経済繁栄を享受した。工業生産力は大幅に増大し、大量生産、大量消費の生活様式が定着していった。だが一般の労働者や農民の購買力は、急激な生産拡大に追いつかず、ついに1929年10月、ニューヨーク市場で株価の大暴落がおきた。この影響は、アメリカ資本に依存してきたドイツをはじめとするヨーロッパ諸国や日本にも及び、不況は一気に世界中に広がった。

特にアメリカ経済の悪化は深刻で、恐慌の最初の4年で国民総生産は半減し、失業者は約1300万人に膨れ上がった。これに対して、新たに大統領に就任した**フランクリン・ローズヴェルト**は、大規模な公共事業によって失業者を救済するなど、「ニューディール」と呼ばれた積極的な経済政策で景気の回復をはかった。

■■■ ファシズムの台頭 ■■■

世界恐慌が深刻化するなか、ドイツでは、1933年に**ヒトラーのナチス**が独裁体制を敷いた。ナチスは、反共産主義と反ユダヤ主義を掲げ、ワイマール共和国の民主政治を否定した。また、ヴェルサイユ体制を公然と批判して、攻撃的な領土拡大路線をとった。

こうした非民主的な政治潮流は、他の国々にもみられた。イタリアでは**ムッソリーニ**率いるファシスト党が、すでに1920年代後半には一党独裁体制を樹立していたが、1930年代には領土的野心を鮮明にし、エチオピアへの軍事侵攻を主導した。

このころ、日本でも軍部の力が大きくなり、1931年には関東軍による満州事変が勃発した。日本は、1933年には満州国の建国をめぐる、国際連盟から脱退する道を選ぶ。このように孤立を深めた日独伊3国は、その後、互いの利害から急速に接近していくことになる。

■■■ 大戦のはじまりと拡大 ■■■

1939年9月、ドイツ軍のポーランド侵攻によって第二次世界大戦が幕を開けた。英仏両国は即座にドイツに対して宣戦を布告したが、直前にドイツと不可侵条約を結んだソ連はポーランド東部を占領した。戦争初期のドイツ軍の勢いはすさまじく、1940年6月にはフランスを降伏させ、翌41年には**独ソ戦**を開始する。こうした情勢を見てイタリアはドイツ側で参戦し、日本もドイツ・イタリアと三国同盟を締結した。

このころ、東アジアでは、1937年から続く日中戦争が長期化し、資源に乏しい日本はベトナムに侵出した。日本の南進を警戒するアメリカ、イギリスはこれに経済制裁で応えたが、1941年12月、日本軍はハワイの**真珠湾を攻撃**し、アメリカ、イギリスとの戦争に突入した。これによって、アメリカは日独伊三国同盟の締結国であるドイツ、イタリアとも交戦状態となった。ここに、ヨーロッパの戦争とアジア・太平洋の戦争は一体化し、第二次世界大戦は文字通りグローバルな戦争となった。

考えてみよう 調べてみよう

- 第一次世界大戦後の「平和」が失われていく過程で、世界恐慌はどのような影響を及ぼしただろうか。各国の植民地や勢力圏にも注目して考えてみよう。
- ファシズムとはどのような政治体制であっただろうか。ドイツとイタリアの例に即して調べてみよう。
- 第二次世界大戦における民間人の被害は、どのようなかたちでもたらされ、どれほどの規模に達しただろうか調べてみよう。